

- ・日本では、2020年10月に当時の菅総理が2050年カーボンニュートラル宣言。
- ・2021年4月には地球温暖化対策本部にて温室効果ガスを2013年度から46%削減することを目指すとしている。

次代を担う子供たちが心身ともに健やかに育ち、自然と共生し安心して暮らすことのできる「魅力生まれる山江村」の実現に向け、村民の皆様と事業者、行政が一体となって、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指すことを宣言。

(1) 山江村のこれまでの取組 (SDG s の推進、二酸化炭素縮減等)

・山江村総合エネルギー検討委員会設置

平成28年に山江村総合エネルギー検討委員会を設置し、**本村として「エネルギーの完全自給」を最終目標**として掲げ、省エネ・再生可能エネルギーの有効活用及び地球温暖化対策等を検討。

・木質バイオマス資源の持続的活用に向けた設備導入計画書の策定

平成30年に「環境にやさしい村づくり」の実現と、林業活性化及び山林保全策の一助を目的に策定。

・木材エネルギーを利活用する薪ストーブを導入

設備導入計画書をもとに、令和4年3月に村内公共施設(復興村づくり推進室)に木材エネルギーを利活用する薪ストーブを導入。

・山江村住宅用太陽光発電システム設置費補助事業を実施

・山江村住宅リフォーム助成事業(省エネルギー推進)を実施

・山江村省エネ家電等生活支援事業を実施

・山江村「鎮山親水」植樹祭を開催

(2) 脱炭素に向けた取組について

今回、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指すため脱炭素に向けた取組み・施策に対するアウトラインを設定。

「鎮山親水」の理念もと令和2年7月豪雨の復興と併せて、再生可能エネルギーの地産地消を目指し、森林環境の保全及び災害に適應したシステムの構築を図る

鎮山親水

山江村が目指す復興の旗印

・・・山を鎮め、水に親しむ、自然と共生し安心して暮らせる村づくりの基本理念

①薪ストーブの普及促進

木材エネルギーの供給体制構築

- ・薪ストーブ導入補助事業の導入
- ・村内で循環した供給体制構築

②自伐型林業の推進

- ・災害に強い持続可能な森づくり(村内CO2吸収量の維持・拡大)

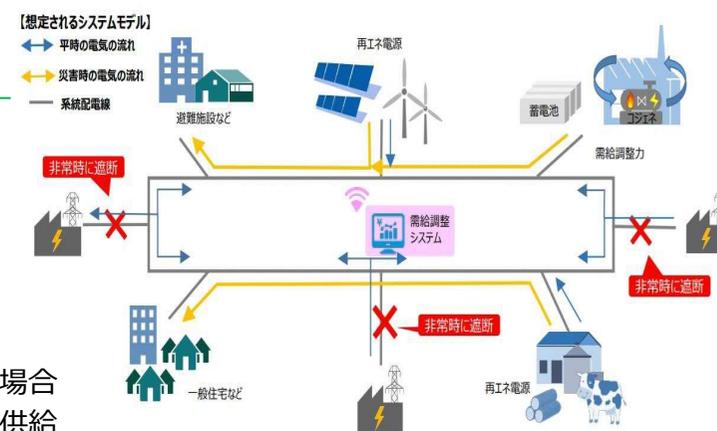
③カーボンオフセットの導入(検討)

④木質バイオマス発電導入(検討)

- 【Step 1】 防災拠点等
- 【Step 2】 各集落
- 【Step 3】 村内全域

- ・エネルギーの地産地消
→**地域産業の活性化**
- ・安価で安定したエネルギー供給
- ・地震や台風などの災害により停電が発生した場合には、地域内独自の配電にて安定的に電力の供給
→**災害に柔軟に対応するシステム構築**

⑤太陽光発電設備等を段階的導入(検討)



災害に停電が発生した際の電力供給システム例
(出典：地域マイクログリッド構築の手引 | 経済産業省)

(3) 今後の展開

- ・専門的な事業者を活用した調査、データ等を踏まえ実行計画を策定し、計画に沿って進める。
- ・各取組に関しては、村民の皆様と事業者、行政が一体となって取組む。